

タキイ育成
トウガン

着果に優れたミニトウガン

タキイ春の提案 直売所出荷用にもおもしろい



姫とつがん

タキイ研究農場

日高

輝久

トウガンの果実サイズは品種にもよりますが、総じて大きく、一度の調理で使い切るには大きすぎ、カットしてしまえば貯蔵性がなくなってしまう。しかし、今回新発表の「姫とつがん」は、扱いやすいミニサイズで、核家族で使い切るのにピッタリのサイズで、保存しておいたものを食べたい時に料理できます。栽培性は、温度さえ確保できれば土地を選ばず簡単に、プロ農家から家庭菜園まで十分楽しめるので、ぜひチャレンジしてみてください。

品種特性

1 ミニサイズでよく揃う

果実は1・5〜2kg程度のかわいいミニサイズです。果形は俵型で、果皮色は鮮やかな緑色を呈し、

トウガンによく見られるブルーム（粉ふき）は、ほとんどないのが特長です。果実表面にはトウガン独特のトゲがあるので、扱いには注意しましょう。

2 貯蔵性に優れる

果実内部は白色で、果肉質はトウガンとしては少しやわらかめです。しかし、貯蔵性を十分に持ちあわせているので、夏に収穫しても通気性のよい冷暗所なら冬まで貯蔵することが可能です。

3 草勢はやや強めで長期多収

トウガンは低温適性がないので霜には耐えられませんが、病気にかかりにくく、生育は旺盛で安心して栽培できます。中でも「姫とつがん」は、やや草勢が強めで雌性性、着果性が安定し、環境変異に鈍感で栽培容易です。雌花の発生はやや遅めですが、着果性が高く、果実サイズが小さい分たくさん収穫できます。つるもちよく、長期にわたり収穫が楽しめます。

栽培のポイント

発芽まで

作物の特性上、発芽までは7日前後の長い日数と25℃前後の高温を必要とします。出芽するまでは温度確保と床土が乾燥しないよう注意します。

圃場の準備

「姫とつがん」は、ウリ科作物の中でも根が広く深めに張るので、土壌水分には鈍感な方ですが、急激な乾燥や過湿は禁物です。排水のよい土地を選び、マルチなどで土壌水分を安定させましょう。

施肥はあまり多くを必要としません。目安として、10a当たり成分量でチッソ10kg、リン酸15kg、カリ10kgくらいを基準に作型や土質により調節します。
つるの仕立て方 放任栽培も可能ですが、ある程度

管理をしやすいにするには、地這い栽培で子づる4本仕立てをおすすめします。株間は1m前後、畝幅は3〜4mくらい確保します。

孫枝の管理として、子づるから発生する株元の枝は込みすぎる場合が多いので、早めに除去します。その際、雄花は交配花粉として必要なもので残しておきます（図）。

交配と着果 雌花はスイカやカボチャと同じで、子づる上に定期的に着生します。15節以降に着生する雌花に着果させます。トウガンは単為結果しませんが、受粉しないと着果しないので、自然のミツバチ訪花または手交配が必要です。手交配なら朝の早いうちにたつぷりと柱頭に花粉をつけま。

着果数は1つる当たり2果を目標にします。くす果の発生が少ないので、無摘果でもよいでしょう。

収穫 収穫適期の判定は、果実の肥大が止まったころの開花後25〜30日くらいです。収穫期の幅は広いので、特に交配の目印などはなくてもよいでしょう。

「姫とつがん」の適作型

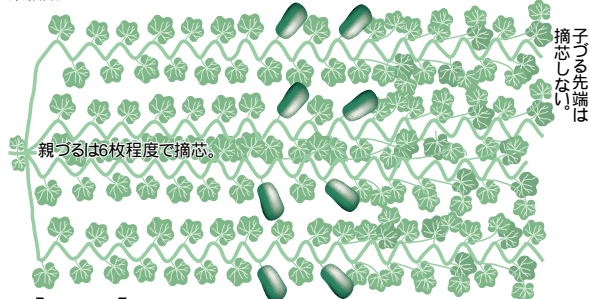
播種期の決定は、以上確保できる時期から逆算します。ほかの品種では、スイカの生育適温に近いので、スイカの作型が参考になります。

圃場に定植する時期の最低気温が15℃

栽培型	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハウス											
トンネル											
露地											
ハウス制											

図 子づる4本整枝、各つる2果どり栽培

葉枚数 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32



株元の孫づるは早めにかき取る。